

第2次 長野県教育振興基本計画

概 要

平成25年(2013年) 3月

長 野 県

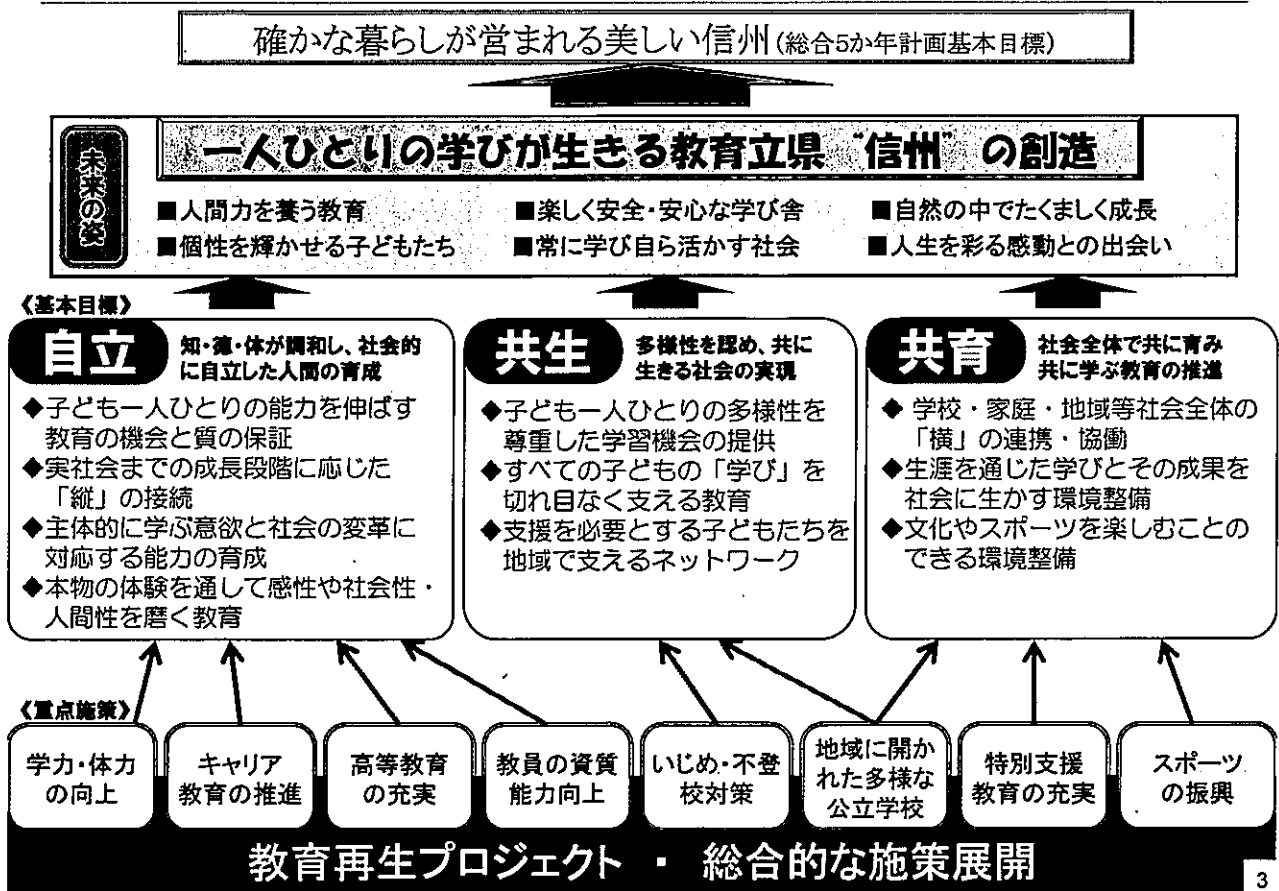
第2次計画のポイント

<p>1 長期的な視点を意識</p> <p>▶ 人口減少の本格化など時代が大きな転換点を迎える中で、私たちがめざす「未来の信州教育」の姿を描き、その実現に向けた方向性や方策を明確化</p> <p>▶ 今生まれた子どもたちが成人する概ね20年後を見ずえて、めざすべき「未来の信州教育」の姿を提示</p>	<p>2 総合計画のプロジェクトとの連動と重点施策の明示</p> <p>▶ 総合5か年計画の「教育再生プロジェクト」と連動して先駆的・先導的な取組を推進</p> <p>▶ 今後5年間の施策を推進していくにあたり、3つの基本目標と、8項目の重点的施策を明示</p>
<p>3 信州教育スタンダードを提案</p> <p>▶ 県民の皆さんに共感していただける、「信州らしい」、「信州ならではの」具体的な教育の姿「信州教育スタンダード」を提案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県民等の取組による優れた【教育の伝統】 ・長野県の特長となっている【教育活動】 ・新たな特長にしていきたい【教育目標】 	<p>4 わかりやすい成果目標を設定</p> <p>▶ 施策ごとに、受益者である児童生徒や県民にとっての成果目標を設定</p> <p>▶ 成果目標の達成度を測定する指標をきめ細かく設定(51項目)</p>

第2次計画の組立て

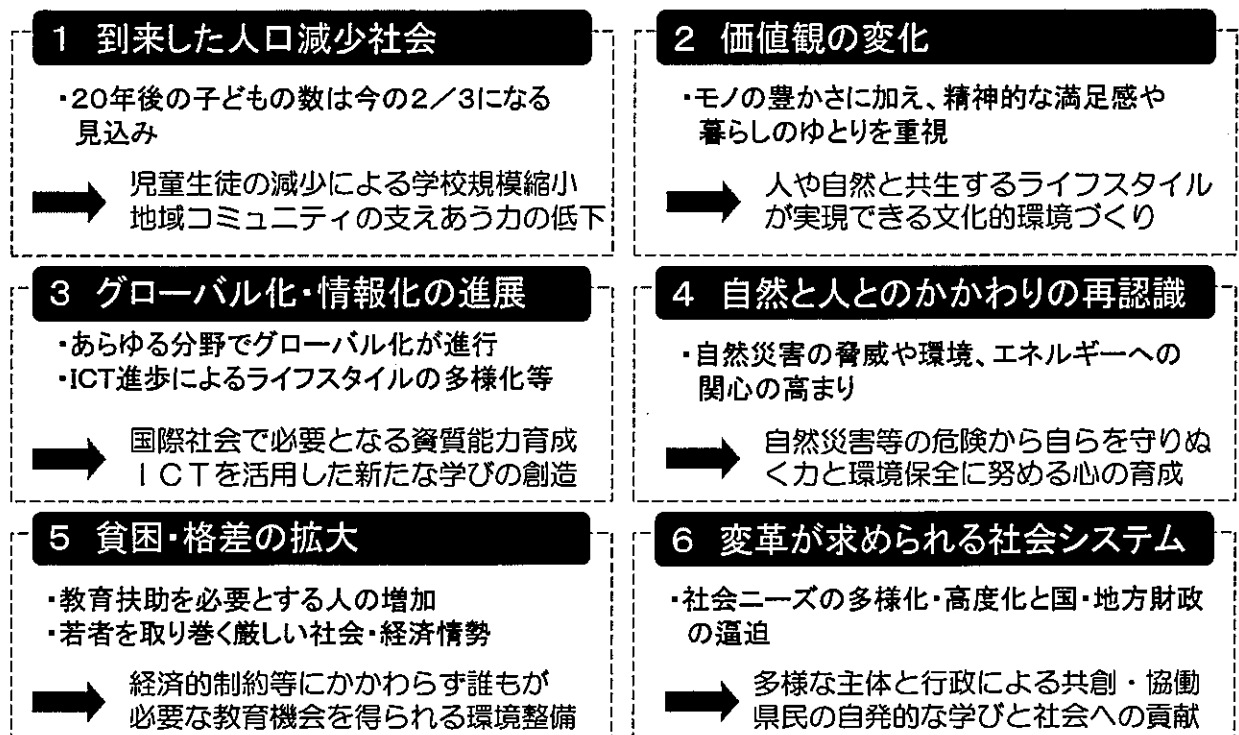
<p>第1編 計画策定の基本的な考え方</p> <p>策定の趣旨 平成24年度(2012年度)末の第1次計画の期間満了を控え、教育を取り巻く環境変化や新たな課題が明らかになる中で、改めて本県の教育政策の方向性を示すため第2次計画を策定する。</p> <p>計画の性格 ・教育基本法に基づく本県教育の振興に関する基本的な計画 ・長野県総合5か年計画に対応する教育分野の個別計画</p> <p>計画期間 平成25年度～平成29年度の5年間</p>	
<p>第2編 長野県の教育をめぐる情勢</p> <p>①時代の潮流と教育の課題 ②本県教育のポテンシャル</p>	<p>第3編 長期的な教育振興の方向</p> <p>①基本理念 「一人ひとりの学びが生きる教育立県“信州”の創造」 ②私たちがめざす「未来の信州教育」の姿</p>
<p>第4編 基本計画(5年間の施策)</p> <p>I 知・徳・体が調和し社会的に自立した人間の育成 II 多様性を認め、共に生きる社会の実現 III 社会全体で共に育み共に学ぶ教育の推進</p> <p>①基本目標 ②重点的施策と「信州教育スタンダード」の推進 ③総合5か年計画における教育分野の主要プロジェクト(教育再生プロジェクト) ④施策の展開</p>	
<p>第5編 計画を推進するための基本姿勢</p>	

第2次計画のめざす姿(目標)



第2編 長野県の教育をめぐる情勢

●第1 時代の潮流と教育の課題



第2編 長野県の教育をめぐる情勢

●第2 長野県教育のポテンシャル(潜在力・可能性)

教育を大切にす風土と県民性

- ・明治初期の就学率日本一など教育に熱心な伝統
- ・公民館や図書館が充実し、県民の学習意欲が高い
- ・地域の子どもは地域で育てるという気風
- ・国にさきがけて小・中学校の30人規模学級を拡大

活発な体験学習

- ・地域の教育資源を活用した体験活動
- ・小学校のスキー・スケート、中学校の集団登山など多彩な学校行事

伝統を受け継ぐ地域

- ・民俗芸能や伝統行事が守り伝えられている
- ・新たな文化を創造する活動が活発

5

第3編 長期的な教育振興の方向

おおむね20年後を見すえ、未来の主役の子どもたちにどのような長野県を引き継ぐべきか長期的な方向を示す

●第1 基本理念

一人ひとりの学びが生きる 教育立県“信州”の創造

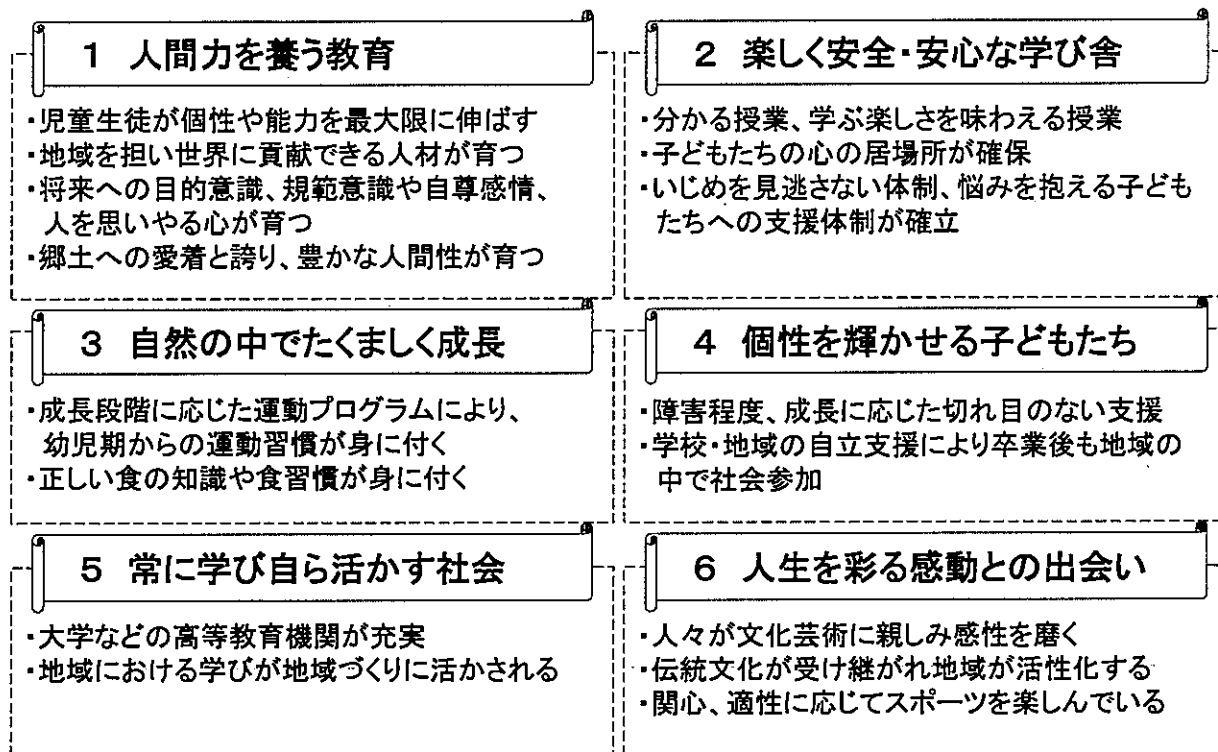
▶子どもたちが生きる力を育み、社会的な自立に向けた基礎を築くとともに、誰もが生涯にわたって意欲をもって学び、郷土や自然を大切にしながら社会の中で能力を十分発揮できる教育を実現することで、「確かな暮らしが営まれる美しい信州」※の創造をめざします。

※長野県総合5か年計画の基本目標

6

第3編 長期的な教育振興の方向

●第2 私たちがめざす「未来の信州教育」の姿



7

第4編 基本計画(今後5年間の施策)

●第1 基本目標

自立

知・徳・体が調和し、社会的に自立した人間の育成

重視する点

- ◆子ども一人ひとりの能力を伸ばす教育の機会と質の保証
- ◆実社会までの成長段階に応じた「縦」の接続
- ◆主体的に学ぶ意欲と社会の変革に対応する能力の育成
- ◆本物の体験を通して感性や社会性・人間性を磨く教育

共生

多様性を認め、共に生きる社会の実現

重視する点

- ◆子ども一人ひとりの多様性を尊重した学習機会の提供
- ◆すべての子どもの「学び」を切れ目なく支える教育
- ◆支援を必要とする子どもたちを地域で支えるネットワーク

共育

社会全体で共に育み共に学ぶ教育の推進

重視する点

- ◆学校・家庭・地域等社会全体の「横」の連携・協働
- ◆生涯を通じた学びとその成果を社会に生かす環境整備
- ◆文化やスポーツを楽しむことのできる環境整備

8

第4編 基本計画(今後5年間の施策)

●第2 重点的な施策と「信州教育スタンダード」の推進

重点的な施策

①学力・体力の向上

- ・知識・技能活用力、課題探究力の育成
- ・幼保・小・中・高の連続性ある指導充実
- ・英語コミュニケーション能力、情報活用能力の向上
- ・長野県版運動プログラムの推進 など

②キャリア教育の推進

- ・体系的、系統的なキャリア教育
- ・長野県キャリア教育支援センター、市町村プラットフォームによる支援
- ・実社会とつながる体験機会の充実 など

③高等教育の充実

- ・大学間連携や産学官協働等による人材育成
- ・県立4年制大学の設置
- ・小・中・高等学校、地域社会と高等教育機関との連携 など

④地域に開かれた多様な公立学校

- ・地域住民の学校支援と運営参画の充実
- ・学校評価、授業公開の充実
- ・少子、人口減少社会に対応した新たな学校づくり支援
- ・第2期高校再編計画の策定 など

⑤教員の資質能力向上

- ・学校運営のマネジメント力向上
 - ・教員の倫理向上
 - ・教員採用の改善、適正評価の推進
 - ・研修体系の構築、校内研修の充実
- ※教員の資質向上・教育制度あり方検討会議提言の具体化 など

⑥いじめ・不登校対策

- ・いじめ等学校問題支援チームの設置
- ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置
- ・「いじめNO! 県民ネットワークながの」等との連携 など

⑦特別支援教育の充実

- ・小、中、高校の特別支援教育充実
- ・個別の教育支援計画の作成
- ・児童生徒の増加等に対応した環境整備
- ・発達障害への支援体制整備 など

⑧スポーツの振興

- ・より気軽に取り組めるスポーツの普及
- ・総合型地域スポーツクラブの育成・支援
- ・競技力向上に向けた選手強化
- ・障害者スポーツへの支援 など

9

第4編 基本計画(今後5年間の施策)

●第2 重点的な施策と「信州教育スタンダード」の推進

信州教育スタンダード

「信州らしい」、「信州ならではの」の教育として、県民の皆さんに共感していただき維持・充実・実現したい具体的な教育の姿を提案

守りたい教育の伝統

県民・学校等の自主的取組による優れた伝統で、施策を支える基盤となるもの

- 信州の自然や特色を生かした体験学習(スキー・スケート、集団登山等)が活発
- 学校で県歌「信濃の国」や地域の歌を学んでいる
- 子どもたちが身近な地域行事に積極的に参加している(全国トップクラス)
- 活発な公民館活動が行われている(公民館数、利用者数が全国一)

11

維持・充実したい教育活動

施策の推進の成果として、長野県の特長となっている教育活動

- 国にさきがけて小・中学校30人規模学級編制が実現している
- 冬季アスリートを発掘・育成する取組「SWANプロジェクト」に取り組んでいる

実現したい教育目標

施策を推進することで、新たな長野県教育の特長にしていきたい教育目標

- すべての高校生(全日制)が卒業するまでに就業体験を行うようにする
- 県内の幼稚園・保育所、小・中学校で長野県独自の「運動プログラム」による体力向上に取り組む
- 長野県独自の指導資料「信州ベーシック」を全ての義務教育教員に浸透させる
- 特別支援学校の分教室など、長野県らしい特別支援教育の地域化を進める
- 異年齢の子どもたちの共同生活体験「通学合宿」が活発に行われる

12

第4編 基本計画(今後5年間の施策)

●第3 県総合5か年計画の主要プロジェクト【教育分野】

「教育再生プロジェクト」～良き人生を築き社会に貢献できる人材の育成～

子どもたち一人ひとりが、学力や体力、人間性などを身に付け、自らの人生を切り拓き、社会に貢献できる人材として育つとともに、県民誰もが生涯にわたる学びを通じて自己を磨き、豊かな人生を送ることができる教育県をめざします。



(学力・体力の向上と多様な学習機会の提供)

子どもたちの学力や体力を向上させるとともに、一人ひとりの個性に合った多様な学習機会を提供します。

県民の皆様へ

- ・子どもたちの多様な個性や能力を大切にしながら、子どもたちをしっかり見守り、支えていきましょう。
- ・人口減少等に対応した新しい学校づくりについて一緒に考えていきましょう。



(地域に開かれた信頼される学校づくり)

コミュニティスクールなど、家庭や地域が小・中学校を支える仕組みを構築し、地域に開かれ信頼される学校づくりを進めます。

県民の皆様へ

- ・保護者はもとより地域住民の皆様は、学校運営に積極的な支援をお願いします。



(農林業体験など体験活動の推進)

子どもたちの社会性や自主性を育むため、小・中・高等学校で農林業体験、福祉体験、就業体験など様々な体験活動を推進します。

県民の皆様へ

- ・社会体験・職業体験への協力など、学校と連携して子どもたちの体験を通じた学びを支援しましょう。



(情報活用能力、英語コミュニケーション能力の向上)

時代の変化に対応できる人材を育成するため、子どもたちの情報活用能力や英語コミュニケーション能力の向上に取り組みます。

県民の皆様へ

- ・ICT活用や英会話などの専門的な能力を持っている方は、学習ボランティアなどで児童生徒の学びの支援をお願いします。

13



(高等教育全体の振興)

地域社会の発展に貢献できる有為な人材を育成するため、県内の高等教育全体を振興するとともに、県立4年制大学を設置します。

県民の皆様へ

- ・県内高等教育関係者の皆様は、長野県の未来を担う人材育成に連携して取り組みましょう。
- ・経済界の皆様は、インターンシップの受入れや大学との対話促進など高等教育機関との連携をお願いします。



(生涯にわたる学びの環境整備)

生涯にわたる学びや学び直しができる環境整備を進めます。

県民の皆様へ

- ・生涯にわたって様々な人々と関わりながら学びつづけるとともに、学びの成果を地域や社会に活かしましょう。

【達成目標】

★学校満足度 小学校92.0%、中学校90.0%、高等学校80.0%(H29年度)

★全国学力・学習状況調査

・「基礎的・基本的な内容の定着度」が全国平均よりも高い児童生徒の割合

小学校65.0%、中学校60.0%(H29年度)

・「学習したことを実生活の場面に活用する力」が全国平均より高い児童生徒の割合

小学校60.0%、中学校56.0%(H29年度)

★全国体力・運動能力、運動習慣等調査での体力合計点(全国順位) 10位台(H29年度)

★信州型コミュニティスクールの実施割合(小・中学校) 100%(H29年度)

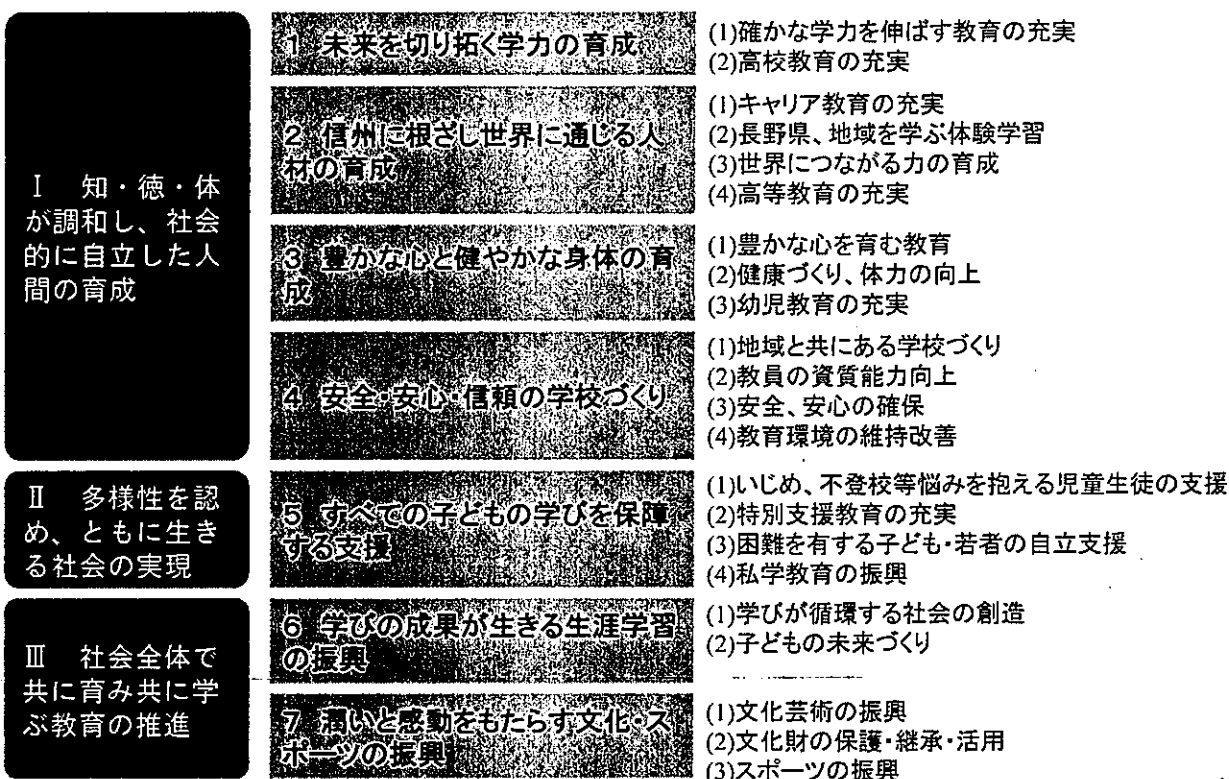
★就業体験活動を実施した生徒数の割合(高校生) 100%(H29年度)

★英語コミュニケーション能力水準

英語検定3級レベル(中学生)40%、英語検定準2級レベル(高校生)40%(H29年度)

第4編 基本計画(今後5年間の施策)

●第4 施策の展開【施策体系図】



第4編 基本計画 — 第4 施策の展開①

1. 未来を切り拓く学力の育成

- (1) 確かな学力を伸ばす教育の充実
- ・小・中学校30人規模学級編制などによる学習・生活習慣の定着、基礎学力向上
 - ・児童生徒同士の学び合い(グループ学習、討議形式等)の充実
 - ・小中、中高連携に関する研修会等の取組支援
 - ・ICTを活用した一斉学習、個別学習、協働学習等の研究・実践
- (2) 高校教育の充実
- ・第1期再編計画の着実な推進と評価、第2期再編計画の策定
 - ・学力実態、意識調査の実施、授業における観点別評価推進
 - ・中学・高校の接続を考慮した教員研修等による基礎学力保障

2. 信州に根ざし世界に通じる人材の育成

- (1) キャリア教育の充実
- ・小中学校を支援する市町村のキャリア教育プラットフォーム構築
 - ・中高生の職場体験や就業体験活動、子育て理解教育の充実
 - ・県キャリア教育支援センターを通じた福祉体験や農林業体験の支援
- (2) 長野県・地域を学ぶ体験学習
- ・自然や文化等地域資源に関する活用事例、教材、人材情報の教員への提供
 - ・学校における環境教育・自然体験充実、「こどもエコクラブ」、「みどりの少年団」等の活動促進
- (3) 世界につながる力の育成
- ・指導方法改善等による英語コミュニケーション能力の向上
 - ・「信州サイエンスキャンプ」、科学コンテストへの参加促進、探究的な学習をする学科の設置検討
- (4) 高等教育の充実
- ・大学間連携の強化や産学協働による人材育成に関する対話
 - ・新たな県立4年制大学の設置、工科短大南信キャンパスの検討

3. 豊かな心と健やかな身体の育成

- (1) 豊かな心を育む教育
- ・「共育」クローバープラン(本を読む、汗を流す、あいさつ・声かけをする、スイッチを切る)の推進
 - ・社会奉仕や自然体験等の体験活動を生かした道徳教育、学校人権教育の推進
- (2) 健康づくり・体力の向上
- ・幼児期からの成長段階に応じた長野県版運動プログラムの実践
 - ・幼稚園、保育所、学校における食育の計画的推進
- (3) 幼児教育の充実
- ・幼稚園教員、保育士の専門性向上のための研修、幼保、小学校間のこども、教員の交流

4. 安全・安心・信頼の学校づくり

- (1) 地域と共にある学校づくり
- ・学校運営に関わる中堅教員の研修等によるマネジメント力向上
 - ・保護者や地域が学校支援を通じ、学校運営に参画する仕組みづくり
 - ・学校評価の充実による信頼される学校づくり
- (2) 教員の資質能力向上
- ・教員の不祥事再発防止のための抜本対策の実施
 - ・ライフステージに応じた研修体系の構築、校内研修の活性化、適正な教員評価の実施
 - ・幅広い視点での採用選考や教員養成大学との連携による優秀な教員確保
- (3) 安全・安心の確保
- ・県立学校の耐震改修や大規模改修・改築
 - ・防災教育、交通安全等学校安全の充実
- (4) 教育環境の維持改善
- ・高校再編に伴う施設整備、老朽校舎改修、特別支援学校不足教室解消
 - ・人口減少期の小・中学校のあり方検討と新たな学校づくりの支援

16

● 主な達成目標①(総合5か年計画と共通する指標)

目標の達成度を測定する指標		現状値	目標値(H29)
1 未来を切り拓く学力の育成	「授業がよく分かる」と答える児童生徒(小6、中3)の割合	小・中学生 73.7%	小・中学生 76.0%
	全国学力・学習状況調査で基礎的・基本的な内容の定着度が全国平均より高い児童生徒(小6、中3)の割合	小学生 61.8% 中学校 56.5%	小学校 65.0% 中学校 60.0%
	全国学力・学習状況調査で「学習したことを実生活の場面に活用する力」が全国平均より高い児童生徒(小6、中3)の割合	小学生 58.0% 中学生 53.8%	小学校 60.0% 中学校 56.0%
	「学校の授業が理解できている」と答える生徒(高2)の割合	75.3%	80.0%
	県の学力実態調査(高2)における基礎学力定着度(正答率)	国 63.4% 数 58.9% 英 58.0%	国 65.0% 数 60.0% 英 60.0%
2 信州に根ざし世界に通じる人材の育成	「将来の夢や目標をもっている」と答える児童生徒(小6・中3)の割合	小・中学校 80.2%	小・中学校 83.0%
	在学中に就業体験活動を1日以上実施した全日制高校生の割合	52.2%	100%
	英語コミュニケーション能力水準 ・英検3級レベル(中学生) ・英検準2級レベル(高校生)	中3 19.8% 高3 30.0%	中3 40.0% 高3 40.0%
3 豊かな心と健やかな身体の育成	全国体力・運動能力、運動習慣等調査 体力合計点・全国順位	49.1点 31位	51点台 10位台
	毎日朝食を食べる児童生徒の割合	小6 91.2% 中3 85.1%	小6 93.0% 中3 87.0%
4 安全・安心・信頼の学校づくり	「学校へ行くのが楽しい」と答える児童生徒の割合(学校満足度)	小学校 90.4% 中学校 85.7%	小学校 92.0% 中学校 90.0%
	保護者・地域による学校支援や学校運営参画の仕組みができている公立小・中学校の割合	21.0%	100%

17

第4編 基本計画 — 第4 施策の展開②

5. すべての子どもの学びを保障する支援

- (1) いじめ・不登校等悩みを抱える児童生徒の支援
- ・相談員、スクールソーシャルワーカー等による地域支援体制の整備
 - ・地域、NPO、行政、県民一体のいじめに対する行動体制づくり
 - ・インターネットを通じたいじめ等の監視、情報モラル教育
 - ・いじめ等学校問題支援チームの設置
- (2) 特別支援教育の充実
- ・通常学級における全ての児童生徒にわかる授業のユニバーサルデザイン化
 - ・自立活動担当教員や看護師配置の充実、教員の専門性向上
 - ・小・中・高等学校に置いた特別支援学校分教室による専門性のある教育実践
 - ・発達支援を専門的に行う学びの場の検討
- (3) 困難を有する子ども・若者の自立支援
- ・ニート、ひきこもり等の子ども・若者を支援するネットワーク形成
 - ・NPO等との連携による訪問相談等本人・家族への支援
 - ・外国籍児童生徒への教育支援
- (4) 私学教育の振興
- ・私立学校の運営経費補助、高校生の就学支援や授業料軽減

6. 学びの成果が生きる生涯学習の振興

- (1) 学びが循環する社会の創造
- ・生涯学習推進センターでの指導者養成、学習情報提供
 - ・県立図書館のサービス向上
 - ・現代的、社会的課題に対応した学習機会の提供
 - ・地域課題を身近な場所で学ぶ機会や地域活動を促進する公民館を支援
 - ・地域の人権教育リーダーの育成
- (2) 子どもの未来づくり
- ・学校・家庭・地域が分担、連携して子どもを育む支援体制づくり
 - ・放課後児童クラブ、放課後子ども教室による居場所づくり支援
 - ・異年齢の子どもたちの通学合宿の促進や、障害のある子どもの就労体験活動「ぶれジョブ」の普及
 - ・PTAを通じた家庭教育に関する研修
 - ・「早寝早起き朝ごはん」運動や「共育」クローバープラン推進等生活習慣育成
 - ・「県民総ぐるみの青少年育成運動」の推進
 - ・非行防止教室や相談活動を通じた、少年の立ち直り支援や規範意識向上

7. 潤いと感動をもたらす文化・スポーツの振興

- (1) 文化芸術の振興
- ・優れた文化芸術の鑑賞機会や創作・発表の場の提供
 - ・学校における文化芸術鑑賞、伝統文化に関する活動
- (2) 文化財の保護・継承・活用
- ・文化財の現状把握、保存、保護活動への支援
 - ・文化財を生かした地域づくりや観光振興への支援
- (3) スポーツの振興
- ・気軽に行えるスポーツの普及と環境整備
 - ・総合型地域スポーツクラブ等地域のスポーツ団体相互の連携促進
 - ・国際大会や全国規模の大会で活躍できる選手の育成・強化、マルチサポート推進
 - ・SWANプロジェクトの推進による冬季オリンピックで活躍できる選手の発掘・育成
 - ・障害者のスポーツ活動の継続・定着
 - ・地域密着型プロスポーツチームと連携した県の元気創出につながる取組
 - ・スポーツと観光、スポーツと健康づくりの連携推進

18

● 主な達成目標②(総合5か年計画と共通する指標)

	目標の達成度を測定する指標	現状値	目標値(H29)
5 すべての子どもの学びを保障する支援	小・中学校における不登校児童生徒在籍率	1.14%	1.08%以下
	一般企業で実習を行った特別支援学校高等部生徒のうち一般就労した生徒数の割合	62.8%	65.0%
6 学びの成果が生きる生涯学習の振興	公民館における地域課題に関する講座受講者数	197,362人	210,000人
	放課後児童クラブ・放課後子ども教室等児童数	27,307人	30,000人
7 潤いと感動をもたらす文化・スポーツの振興	県立文化施設の利用者数	6,801,636人 (19~23年度累計)	維持・向上 (25~29年度累計)
	国・県指定等文化財の件数	1,175件	1,250件
	運動・スポーツ実施率(1回以上運動をする成人の割合)	48.3%	65.0%
	国民体育大会男女混合(天皇杯)順位	17位	15位以内

第5編 計画を推進するための基本姿勢

この計画を着実に推進するために教育行政に取り組む基本姿勢

1 行政・財政改革の推進

◆「長野県行政・財政改革方針」に沿って、行政経営システム改革や財政構造改革、地方分権改革等の行政・財政改革を推進

2 教育に関わる多様な主体の役割分担と協働、連携

◆教育情報の積極的な提供、学校と地域、民間団体等との連携・協働を進めるコーディネート役の育成、ネットワーク構築などの環境整備

◆市町村との連携協力の充実

◆学校教育の現場における主体性、創意工夫を一層促すための環境整備

3 適切な評価・点検による実効性の確保

◆県民に分かりやすく実効性のある評価・点検の実施

4 計画の見直し

◆社会情勢の変化に対応し、必要に応じて計画を見直す